



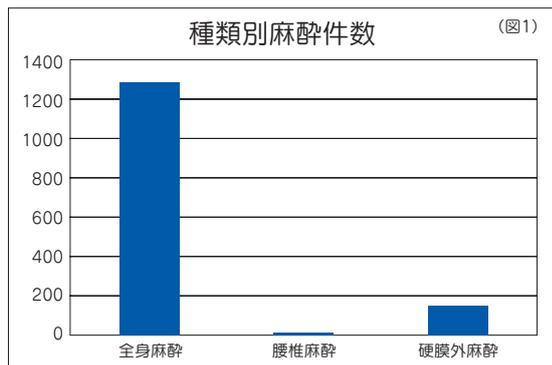
## 高度な技術と最新の設備で、安全・安心の麻酔を提供

術中の安全だけでなく、術前のリスク評価から術後の疼痛管理まで一貫した質の高い麻酔管理

麻酔科代表部長  
吉田 長英

当院麻酔科は、常勤1名非常勤8名で麻酔業務に当たっています。

昨年度の麻酔科実績は、全身麻酔が1310件、硬膜外麻酔が159件です。(図1)



当院麻酔科は、ハイリスクの麻酔が多く、特に、心・血管系のリスクを持った患者さんが多い事が特徴です。

そのため、麻酔深度モニター(BIS)など、高度な仕様のモニターで患者さんの状態を監視しつつ、様々なデバイスを用いて安全を確保し、日々麻酔を行っています。その一例としてエアウェイスコープが上げられます。(写真1) これは、挿管困難、あるいは頸部伸展が脊髄損傷を招く危険のある患者で有効です。その他、マックグラス・エアウェイブジー・トラキライト・気管支ファイバー等を用いて麻酔を行っています。



写真1 エアウェイスコープ

また、術中管理だけでなく、術後の鎮痛管理も麻酔科の重要な役割です。

PCA (patient control analgesia) 回路を用いて経静脈的に、あるいは硬膜外カテーテルを通して鎮痛薬を持続投与し、術後の疼痛コントロールを行っています。(写真2)

更に、状態が悪く全身麻酔が困難な症例に対しては、エコーガイド下神経ブロックで手術を行うこともあります。



回路



静脈ラインへ装着

写真2 IV-PCA

その他、年に2回、救急救命士の研修も行っています。

挿管練習用人形を用いて様々な気道確保の練習を行い、実際にマスク換気も研修しています。(写真3)



写真3 救命救急士研修

最後に、当院麻酔科は、安全・確実な麻酔をモットーに、様々なモニターやデバイスを用いて麻酔を行っています。